

御宿 南房総ふるさとの里地里山再生・管理活動 2010年の活動報告／房総半島の地形－谷津田の地形を中心に

自然再生活動部会／中村華子

2008年から活動を開始した、千葉県御宿町の里地里山管理についてご報告します。現地は夷隅川の支流落合川上流部、美しい谷戸の最も奥で、豊富な湧水が見られます。土地の所有者である株式会社江口と協定を締結し、社員の皆さんと御宿町役場の協力を得ながら、活動を進めています。

今年も敷地内にたくさん見られた不法投棄されたゴミを御宿町役場の協力のもと収集いたしました（右写真）。これからも、湧水の質と量を向上させられるような活動を行っていきたくと思っています。



また5月には夷隅郡市自然を守る会のみなさんが御宿町内で再生している谷津田で行った田植えに参加させていただきました。地域の皆さんにも教わりながら、よりよい関わり方や活動内容を考えて、実践していきたくと思っています。



活動内容

当会では下記の考え方によりこの活動を実施しています。

- (1) 里地および里山は、人が関わることによって保たれてきた二次的な自然です。したがって定期的な管理・保全活動を行うことが重要と考えます。
 - 人工林は、健全な森林育成のための間伐および保育、刈り払い、広葉樹林への樹種転換
 - 二次林は、健全な広葉樹林を再生、育成
 - 放棄水田および湿地の区域は、草木の除去など乾燥化を防ぎ湧水を確保するための措置
 - その他必要な作業 **※ イノシシの食害軽減のため、耕作水田付近の管理を優先的に行います**
- (2) 植生・動物相などの変化を観察し、その結果を記録する
- (3) 自然観察会などを随時行い、地域の方々や一般市民の環境教育に寄する活動を行う
- (4) 環境教育に必要な、周辺の歴史・自然に関する資料を収集管理する

2010年の活動日程と内容

日程	開催形態・作業内容	参加人数	内訳	
			当会	御宿町
2月28日	造成地の不法投棄ゴミの収集・御宿町への引き渡し (不法投棄につき、町役場で後日処理してくれることになった)	10	9	1
3月13日	鴨川の棚田保存活動および周辺の見学、岩瀬酒造の見学	3	2	1
5月23日	いすみ夷隅郡市自然を守る会が御宿町実谷で実施している再生谷津田の田植えに参加	3	2	1
6月5-6日	房総半島の自然観察会・ホテル鑑賞(関会員の案内で地形観察) ・夷隅市山田・ゲンジボタルの里でホテルの観察 (夷隅郡市自然を守る会・手塚様にご案内いただく) ・協定地での活動: 歩道の刈り払いを行う	15	13	2*
5日間	参加者数合計	31	26	5

* 夷隅郡市自然を守る会・手塚様、関先生(関会員のお兄さん)

房総半島の地形 — 谷津田の地形を中心に

6月の活動では一宮出身の関会員の案内で、房総半島の地形的特徴がよく分かるところを何箇所か観察しました。見学地と内容は以下の通りです。

(1) 長柄横穴古墳群

約1,300年前、古墳時代終わりころ～平安期に造られた横穴墓群が徳増地区の山に残っています。平成に入っても地域の方に倉庫や椎茸栽培などのため使われていたようで、保存状態よく残っていました。羨道と玄室の間に段差を持つ「高壇式」横穴墓。段差は1.5mから2m、最大のものには2.9mに達するものがあり、日本で最も高さのある横穴墓だそうです。

ここでは谷戸＝谷津田の地形の基本形がよくわかります。谷戸の源頭部に当たる谷頭凹地を囲む谷壁斜面が古墳の入口（羨門）となり、そこから掘られています。下流側の谷底面は細長く谷戸が続いており、美しい水田となっています。

(2) 万木城展望台

房総半島の全体が見渡せ、眼下にいすみ地域の広大な里山風景も見渡せます。

夷隅川が蛇行して流れている様子がよく見渡せます。天然の外堀、夷隅川に囲まれたこの城は難攻不落といわれたそうですが、徳川四天王のひとりで後に上総大多喜城主となる本多忠勝に落とされ、それ以来廃城となってしまったそうです。



房総半島南部の山並みは北～北西方向に緩やかに下降し、南～南東方向が急な斜面である傾動地塊となっています。これはさいたま新都心あたりを中心とした同心円状に沈降が進んでいて、相対的に南側～南東側が隆起しているためです。そのため、千葉県南部の河川は全て北方向に流れます。東～南方面の海岸の方向の土地が高くなっている様子が、ここからよく見渡すことができました。

このあと訪れた塩田川源流の岩船地区でも、夷隅川源流部でも同様に、海岸すぐ近くの隆起斜面上が河川の源流になっていて、海岸は急斜面の崖になっています。

(3) いすみ環境と文化のさとネイチャーセンター

環境省が全国に4箇所設置した、「環境と文化のむら(さと)」のひとつがここ夷隅にあります。ネイチャーセンターを中心に7つのスポット（照葉樹の森、農業用水用の堰、社寺林、ホテルの里／この日夕方見学地など）が定められています。谷戸の最上流に堰を設けて作られたため池や、湿性生態園があります。館内ではミヤコタナゴが飼育展示されていました。

(4) 天然海岸と谷津田源流（いすみ市岩船）

海女が使っていた手掘り隧道や崖の脇の道を下って、人工物ゼロの天然海岸におりました。気持ちのよい、美しい海岸に、参加者一同爽快な気分になりました。ここは、かつてゴルフ場建設計画があり、漁師が「森が荒れると漁場がだめになる」と反対して計画が中止になったそうです。地域の住民の皆さんは立木トラストなどにより反対運動をしたそうです。

なんと、県の水産課は「工事では直接海へ土砂が流れ出ることはないので、漁業組合の同意は必要ない」との認識だったとか。ほんの15年ほど前の話です…。





海岸はやはり、急斜面の崖になっています。太平洋戦争末期にはこの地形を活かして(?)上陸してくる敵を迎え撃つための備えが作られたとか。

ここで、南房総が隆起してきていることを示す証拠が見つかりました。のぞき込んでいる地層には、炭化した木片や丸い石が含まれていたのです!東京湾が今の形になる前、相模川などから運ばれてきた土砂が流れ込んでいたときのものだと考えられます。思いがけない発見でした。



(5) 岩瀬酒造

海の近くの御宿市街地。不思議なことに駅のすぐ近くに「岩瀬の井戸」があります。地下水が貝殻層を通り、カルシウムやカリウムが多い、人間にも微生物にもおいしい仕込み水です。享保8年(1723年)創業、代々当主の副業的に受け継がれて来ました。現在11代目、先代は戦前から海女を撮り続け、毎日新聞社主催の展覧会で、「総理大臣賞」を受賞した写真家でもありました(代表作:写真集「海女の群像」)。蔵にはこの写真が展示されています。



写真が展示されているギャラリーは内藤多仲氏の設計した、もと病院の建物だそうです。

現在は御宿で3軒しかないという茅葺き屋根の、母屋の梁は慶長14年(1609年)に御宿沖で難破したサン・フランシスコ号の帆柱が使われています。

(6) いすみ市山田地区へ ホテル観察会

夷隅の山田地区では、地元農家の方が「ゲンジボタルの里を守る会」を組織し、ゲンジボタルが生息する環境を保全したり、捕獲者に対する監視を行ったりしています。今回は、夷隅郡市自然を守る会の手塚様に案内していただき、当日時点で一番ホテルが発生しているところにご案内いただきました。ホテルの発生には水温が密接に影響しており、温度が上がっていくと発生場所が変わっていくそうです。

ホテルは農薬の散布や護岸工事によって大きな影響を受けますが、地元の方の熱心な活動によってゲンジボタルは生息数を増やしているとの話し、ほっとしました。しかし近年はヘイケボタルが減少しているのだそうですが、原因はまだよく分からないそうです。

源氏ぼたるの里

案内図

観賞のタベ..

— 期間 —
5月29日(土)~6月4日(金)
午後7時~
ほたる祭り 6月5日(土)午後4時30分

ゴミは各自でお持ち帰り下さい。
また、期間中は周辺道路や駐車場の混雑が予想されますので
できるだけ乗り合わせでご来場下さい。
よろしくお願いたします。